

取扱説明書

改訂版①

エンジン水ポンプ

HG-DP50

HG-DP80

初めてお使いになる方、他社製品を使用し慣れている方
ご使用前に、必ず取扱説明書をお読みにになり、
内容を理解してからお使いください。

燃料 無鉛レギュラーガソリン

用途 水の給排水(海水不可)



エンジンオイルは
入っていません。



HAIGE



HG-DP50

WEB でチェック!

最新の取説及び
本製品の操作の仕方などを
ご覧いただけます。



HG-DP80

目次

はじめに	3	長期間使用しないとき	26
安全上のご注意	3	運搬について	26
製品を長くご愛顧いただくために	3	困ったときの対処法	27
安全にお使いいただくために	4	困ったときの対処法（点火プラグの点検）	28
エンジン水ポンプに係る安全事項	4	消耗品・部品・オプション品一覧	29
エンジン水ポンプの作業に係る安全事項	5	保証内容について	31
安全ラベル	6		
各部の名称	7		
主要諸元	8		
梱包部品一覧	9		
運転の準備	10		
吸水ホース（サクシヨンホース）の取付け	10		
送水ホースの取付け	12		
呼び水を入れる	13		
運転前の点検	14		
エンジンオイルの給油	14		
燃料の給油	15		
エアクリナーの点検	15		
運転操作の仕方	16		
エンジンのかけ方	16		
エンジンの止め方	18		
使用方法	19		
ポンプの使い方	19		
作業を終了するには	20		
点検・整備の仕方	21		
燃料の抜き方	21		
エンジンオイルの給油・点検	22		
点火プラグの点検・整備	23		
エアクリナーの点検	23		
ポンプケース内の点検・整備・清掃	24		

はじめに

このたびはエンジン水ポンプをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

誤った使い方をされますと重大な事故につながる恐れがあります。
この取扱説明書を熟読しご理解してからご使用ください。
また、各ページの警告・注意事項も飛ばさず、必ずお読みください。

安全上のご注意

※お使いになる人や他人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

※誤った取扱をした場合に生じる危険とその程度を次の区分で説明しています。

- 表示と意味をよく理解してから、本文をお読みください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見ることができる所に、必ず保管してください。
- すべて安全に関する内容です、必ずお守りください。



警告

誤った取扱をした時に、死亡や重傷に結びつく可能性のあるもの。



注意

誤った取扱をした時に、軽傷または家屋・財産などの損害に結びつくもの。また故障に結びつくもの。



禁止

取扱においてその行為を禁止します。



指示

指示に基づく行為を強制します。

製品を長くご愛顧いただくために

取扱説明書に従った正しい取扱や定期点検、保守を行ってください。

注意事項に従わず何らかの損害・故障が発生した場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。

安全にお使いいただくために

エンジン水ポンプに係る安全事項



警告



禁止

- ・燃料の臭いがする場合、運転しないでください。爆発の危険があります。
- ・燃料の漏れが見受けられたら、使用しないでください。
- ・エンジンの排気ガスには人体に有毒な成分が含まれています。特に一酸化炭素は無色無臭で非常に強い毒性があり、吸入すると死亡の恐れがあります。
- ・排ガスがこもる場所では使用しないでください。排気ガス中毒になる危険があります。
- ・本機の周囲を囲ったり、箱等をかぶせて使用しないでください。
- ・雨や雪がかかる所でエンジンをかけないでください。
- ・車載したまま使用しないでください。
- ・自動車の車内やトランクにエンジンを載せたまま車両を放置しないでください。燃料が蒸発し、爆発の危険があります。
- ・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。
- ・換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- ・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。
- ・改造、分解は絶対に行わないでください。安全性・信頼性が低下したり故障の原因になります。当社の保証サービスは一切受けられなくなります。
- ・正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作をさせないでください。
- ・未成年者の単独使用は禁止です。監督下で作業してください。
- ・成年者でも、操作の仕方がよく分からない場合は、独自の使用をしないでください。
- ・運転中は点検整備を行わないでください。事故の恐れがあります
- ・ガソリンや燃料油などの引火性液体を吸い込まないでください。火災や爆発を起こし、重傷を負う危険性があります。
- ・ガソリンや燃料油などの引火性液体を吸い込まないでください。火災や爆発を起こし、重傷を負う危険性があります。



指示

- ・自動車で運搬する時は、燃料タンクの燃料を抜いてください。振動等により燃料が漏れることがあります。また、ロープ等でしっかり固定してください。
- ・給油時は、付近にタバコ等の火気の無いことを確認してください。燃料は非常に引火しやすく、気化した燃料は爆発の危険があります。
- ・給油中にこぼれた燃料はきれいに拭きとってください。燃料を拭いた布等は、火災に注意して処分してください。
- ・燃料を衣服にこぼした場合、直ちに衣服を着替えてください。衣服へ引火する危険があります。
- ・給油は、身体に帯電した静電気を除去してから行ってください。引火の恐れがあります。
- ・給油時、燃料タンクの給油限界位置を超えないようにしてください。温度上昇によって燃料が膨張し、漏れることがあります。
- ・燃料タンクキャップは確実に閉めてください。運転中にこぼれると火災の恐れがあります。
- ・運転前に燃料漏れがないか点検・確認してください。
- ・点火源となるような機器の近くに保管しないでください。燃料蒸気へ引火する恐れがあります。
- ・使用中に異常音、異常振動があったときは、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
- ・ご使用前にこの説明書をお読みになり取扱の注意事項をよくご理解の上で使用ください。
- ・エンジンの周りに、木くずなど燃えやすいごみを蓄積させないでください。
- ・点検整備を行なう場合はエンジンを停止してください。思わぬ事故につながる恐れがあります。
- ・点検整備を行なう場合は、エンジンスイッチをオフにしてください。エンジンが不意に始動すると、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- ・点検整備はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン本体やマフラー部の温度も高くなっており、やけどの恐れがあります。
- ・エンジンを始動するときは、周囲に人や動物がいないことを確認してください。
- ・周囲の動植物等にも排気ガスが当たらないように注意をしてください。
- ・運転前点検を実施してください。
- ・労働安全衛生規則、消防法、電気事業法に従ってください。

安全にお使いいただくために

⚠ 注意



禁止

- 本機は、水の給排水をさせることを目的に作られています。他の用途での使用は想定されていません。絶対に、目的外では使用しないでください。
- 水以外は吸水しないでください。
- 海水、泥水、飲料、酸、化学溶液、または腐食を促進するその他の液体を吸い込まないでください。故障の原因になります。
- 燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。



指示

- 燃料は無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- 水平で安定した場所に設置してください。
- 使用できる水の温度は 5℃～40℃です。
- 送水ホースは必ずホースバンドで固定してください。噴き出す水の勢いで送水ホースが暴れたり、外れたりし危険です。
- 呼び水は必ず入れてください。
- 適切な時期に休憩をとってください。
- 本機から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。
- 危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。
- 持ち運ぶときは、エンジンを停止し、燃料タンクから燃料を抜取ってください。
- ご使用時は、本機を建物や他の機器から少なくとも 1 m 離れた所でお使いください。エンジンがオーバーヒートする可能性があります。
- 使用後はポンプ内の水を排水してください。水が凍結すると膨張してポンプを壊す恐れがあります。
- 使用後はポンプ内の清掃を行ってください。怠ると次回使用する際不具合が出る恐れがあります。
- シートカバーなどは機械が十分冷めてからかけてください。
- 定期点検整備を行ってください。
- 長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜取り、火気のないところに保管してください。
- 給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。
- 部品交換は、純正部品を使用してください。
- 本機をご使用になる前に、エンジンの始動、停止の仕方を覚えてください。
- 定期点検整備を行ってください。
- 子供の手の届かない安全な場所に保管してください。

エンジン水ポンプの作業に係る安全事項

⚠ 警告



禁止

- 身体の調子が悪いとき、判断力に影響するような酒類、薬物を服用して使用しないでください。
- 夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くないときは使用しないでください。
- 足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。
- 燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。
- 30 秒以上の空運転はしないでください。ポンプの故障の原因となります。



指示

- 適切な時期に休憩をとってください。
- 本機から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。
- 危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。
- 持ち運ぶときは、エンジンを停止し、燃料タンクから燃料を抜取ってください。

⚠ 注意



禁止

- エンジンがかかっている状態で本機から離れないでください。



指示

- 長袖、長ズボンを着用し、すべりにくい靴、手袋、防塵マスクなどの作業に適した服装を心掛けてください。

安全ラベル ※安全ラベル添付位置は、実際と異なる場合があります。

1 燃料タンク	警告
 無鉛レギュラー ガソリン 容量：3.6L	<ul style="list-style-type: none"> ●ガソリンは引火性と爆発性が高い危険物。 ●エンジンが熱いうちは給油しない。 ●エンジンは有毒な一酸化炭素を排出する。 ●密閉された場所では使用しない。

 危険 火気厳禁 ・給油時はエンジン停止。 ・火災の危険あり。 ・給油口に火を近づけないこと。	 警告 排ガスに注意 室内や換気の悪い場所での運転は、ガス中毒の危険があります。	 注意 マフラー 高温注意 マフラーに触るとやけどをする恐れがあります。
---	---	--

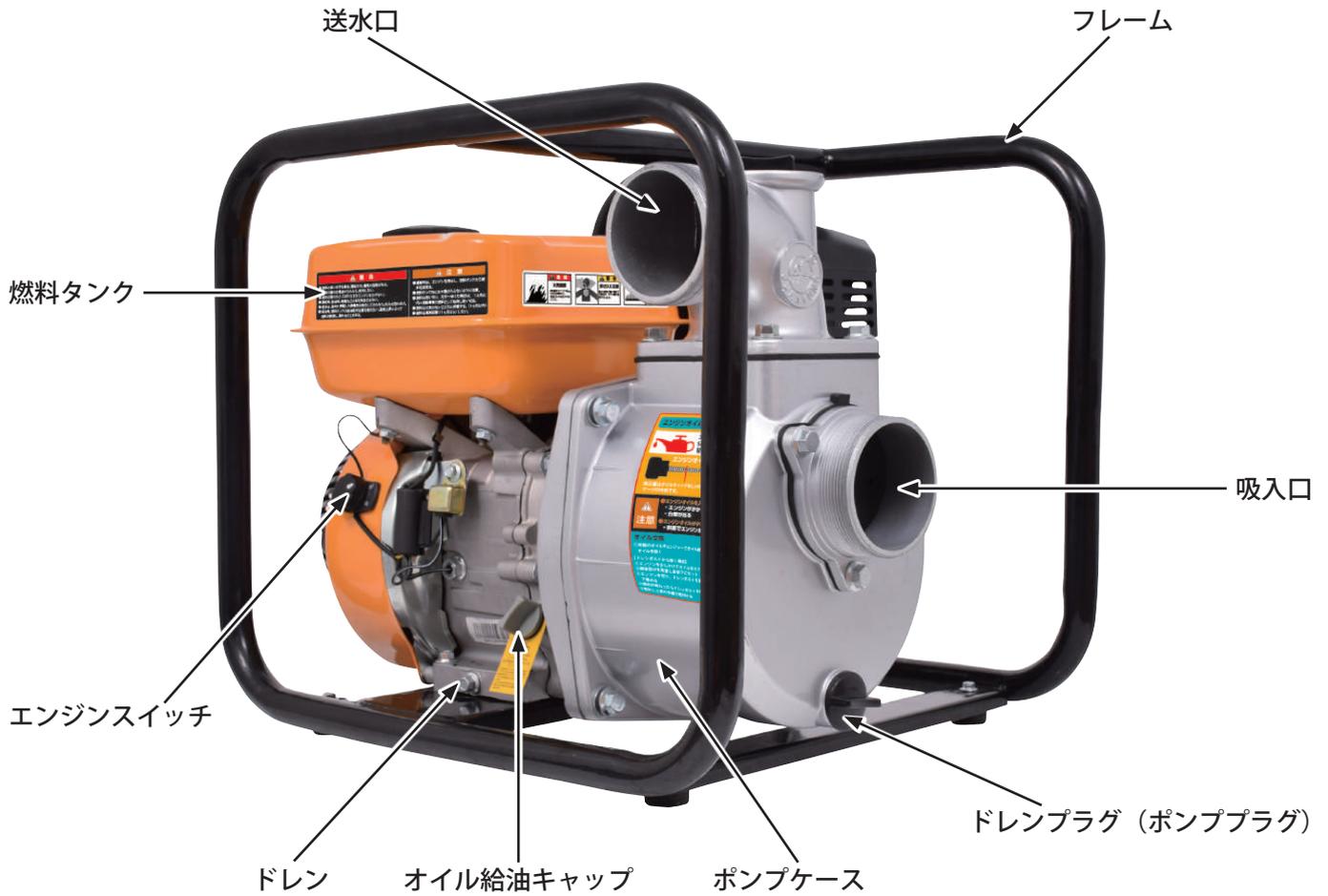


警告	注意
<ul style="list-style-type: none"> ●燃料の臭いがある場合、運転不可。爆発の危険がある。 ●燃料の漏れが見受けられたら、使用しない。 ●燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけない。 ●運転時、給油時、喫煙など火気を発生させない。 ●給油は、身体に帯電した静電気を除去してから行う。引火の恐れあり。 ●給油時、燃料タンクの給油限界位置を超えない。温度上昇によって燃料が膨張し、漏れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運転時は、エンジンを停止し、燃料タンクから燃料を抜取る。 ●燃料タンク内に水や雪が入らないように注意。 ●燃料は使い切り、方が一余った場合は、1ヵ月以内に自動車等の燃料として転用し使い切る。 ●燃料は火気のないところに保管する。(1ヵ月以内) ●燃料は長期保管(1ヵ月以上)しない。

エンジンオイル
 エンジンオイル： SAE10W-30 容量：0.6L
エンジンオイルの適正量  XXXXXXXX XXXXXXXX
適正量はオイルキャップをしっかりと閉めた時のゲージの中央です。
注意
<ul style="list-style-type: none"> ●エンジンオイルを入れすぎると <ul style="list-style-type: none"> ・エンジンがかかりにくくなる ・白煙が出る ●エンジンオイルが少なすぎると <ul style="list-style-type: none"> ・斜面でエンジンが止まる
オイル交換
①市販のオイルチェンジャーでオイル給油口からオイルを抜く 【ドレンボルトから抜く場合】 ①エンジンを少しかけてオイルをカクハンする ②廃油受けを用意し本体下にセット ③エンジンを切り、ドレンボルトを反時計回りで緩める ④排出が終わったらドレンボルトを確実に締める ⑤取外しと逆の手順で取付ける

各部の名称

※本取扱説明書に掲載されている写真はプロトタイプのため、本製品と仕様が異なる場合があります。



※こちらはオイルゲージは付いていません。

主要諸元

モデル名	HG-DP50	HG-DP80
呼径 (Φ)	50mm	75mm
吸入口径	50mm/2.0inch	75mm (80mm) /3.0inch
送水口径	50mm/2.0inch	75mm (80mm) /3.0inch
適応ホース内径	サクシヨンホース 50.8 ± 1.0mm	サクシヨンホース 76.2 ± 1.0mm
	送水ホース (排水用) 50.8 ± 1.0mm	送水ホース (排水用) 76.2 ± 1.0mm
全揚程 (※ 1)	約 32m	約 28m
吸入揚程 (※ 2)	約 7.5m	約 7.5m
最大吐出量	590L/分 (高さ 0m 時)	1000L/分 (高さ 0m 時)
エンジン形式	4 ストローク 単気筒 OHV	
総排気量	212cm ³	
馬力	最大 7HP	
最大出力	5.3kW/3600min ⁻¹	
始動方式	リコイルスターター	
燃料	無鉛レギュラーガソリン	
燃料タンク容量	3.6L	
エンジンオイル	SAE 10W-30	
エンジンオイル容量	0.6L	
燃費 (※ 3)	1L 当たり約 33 分	1L 当たり約 29 分
連続運転時間 (※ 4)	約 3 時間	約 2.5 時間
騒音レベル	105dB	
互換点火プラグ	BP7ES (NGK)	
本体重量	23kg	25kg
本体サイズ (幅×奥行×高さ)	385x480x400mm	410x500x435mm

※ 1 水面から水を送れる高さの最大

※ 2 水面からポンプまで高さの最大

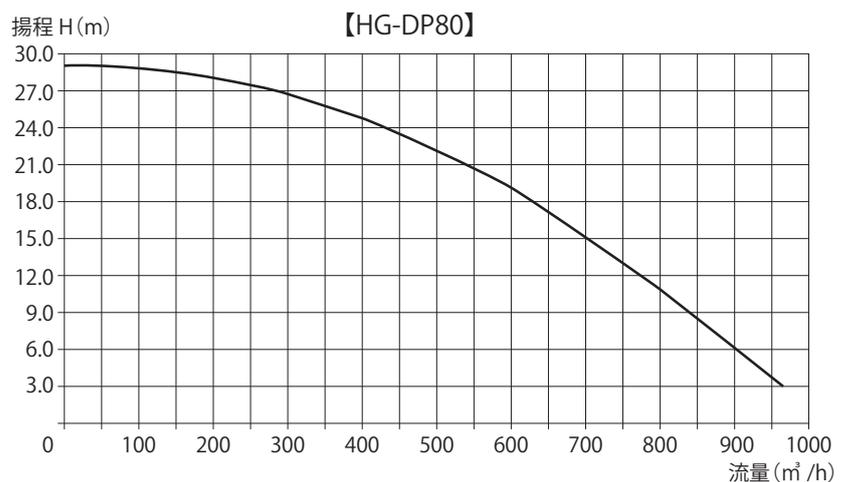
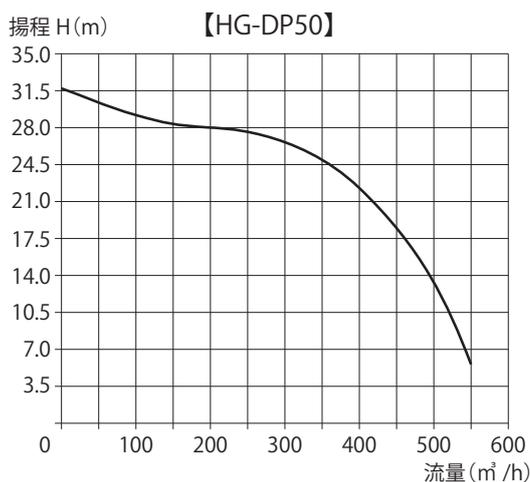
※ 3 燃費は無負荷での数値です。

※ 4 連続運転時間は、使用する状況によって大きく異なります。

◎ハイガーは、顧客満足度 100%を目指し、日々製品 (部品やカラーも含め) の改良を行っています。

そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。

また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。ぜひご理解・ご了承ください。



梱包部品一覧

※本取扱説明書に掲載されている写真はプロトタイプのため、本製品と仕様が異なる場合があります。

1. ユニットとすべてのアクセサリを慎重に箱から取出し、全てのユニット・アクセサリに不足・問題がないことを確認してください。
2. 製品を注意深く点検し、輸送中の損傷がないことを確認してください。万が一損傷が見受けられた場合は、運送会社に1週間以内に連絡をしてください。
3. 梱包材を慎重に検査し、使用する前に廃棄しないでください。不足している場合は、お手数ですが弊社までご連絡ください。

警告

不足しているものがある場合は、不足している部品を入手するまで使用しないでください。

<p>A. 本体</p> 	<p>B. ジョイントカップリング × 2</p> 	<p>C. カップリングパッキン × 2</p> 	
<p>F. ホースバンド × 3</p> 	<p>G. プラグレンチ</p> 	<p>D. タケノコニップル × 2</p>  <p>HG-DP50…Φ 52mm HG-DP80…Φ 77mm</p>	<p>E. ストレーナ</p>  <p>HG-DP50…Φ 52mm HG-DP80…Φ 77mm</p>
<p>H. オイル給油漏斗★</p> 		<p>★印はサービス品です。予告なく同梱終了になる場合があります。ご了承ください。</p> <p>※製造時期により仕様変更になる場合や部品が本体に取付済みの場合があります。</p>	

運転の準備

⚠️ 注意

- 各作業は必ずエンジンを停止した状態で、平坦な安定した場所に設置して行ってください。
- 各ホースは必ずホースバンドで固定をしてください。特に送水ホースはしっかり外れないようにホースバンドで固定してください。噴き出す水の勢いで送水ホースが暴れたり、外れたりし危険です。
- 送水ホース、吸水ホースは口径のあったものをご使用ください。

吸水ホース(サクションホース)の取付け

吸水ホース(サクションホース)をご用意ください。吸水ホース(サクションホース)は、ポンプ吸水に適したものをご使用ください。

柔らかいホースを使用されますと、水を吸い上げませんのでご注意ください。高さが7.5m以上ある場所では使用できません。

■硬いホース

指で押してもつぶれません。使用可能です。

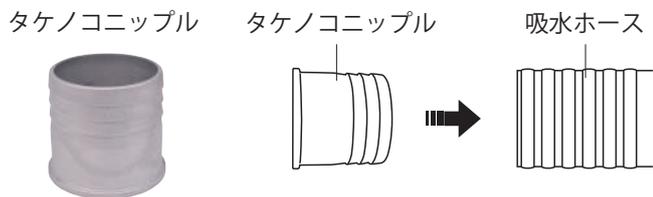


■柔らかいホース

指で押すとつぶれます。使用できません。



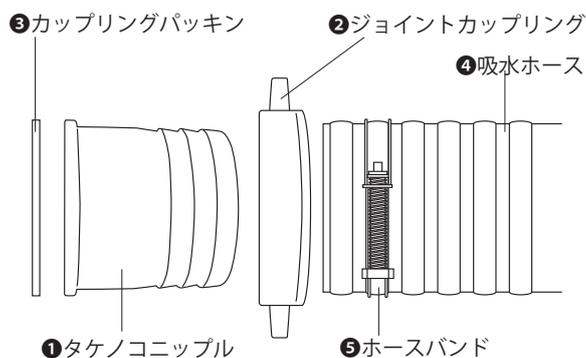
★ホースをホームセンター等でご購入の際は、店員さんに「ポンプ吸水用サクションホース」とお伝えください。また、ホース購入時に部品の「タケノコニップル」を持参し、サイズを確認することをおすすめします。



※簡単に入るようであれば、サイズが合いません。通常はホースを熱湯や熱風で温め、柔らかくしてからタケノコニップルを挿込みますのでスムーズに入るようであれば使用不可です。

■適応ホース

モデル名	呼径 (Φ)	内径 (Φ)	最大長さ
HG-DP50	50mm	50.8 ± 1.0mm	7.5m
HG-DP80	75mm	76.2 ± 1.0mm	7.5m



- 1 タケノコニップルに2 ジョイントカップリングを通す
- 3 カップリングパッキンをはめる
- 4 吸水ホースに5 ホースバンドを通す
- 1 タケノコニップルに4 吸水ホースを挿込む

1 ジョイントカップリングにタケノコニップルを通し、カップリングパッキンをはめます。



運転の準備

- 2** 吸水ホース(サクションホース)を熱湯につけ柔らかくします。ドライヤーの熱風を当てても柔らかくなります。



⚠ 注意

やけどに十分ご注意ください。

- 3** 素早くホースにホースバンドを通し、タケノコニップルにホースを奥までしっかり挿込みます。



- 4** ホースバンドを10mmのスパナまたはマイナスのドライバーで締付けます。

- 5** 本体吸入口にカップリングを合わせ、時計回りに回しねじ込みます。



- 6** 反対側の吸水ホース(サクションホース)を熱湯につけ柔らかくします。ドライヤーの熱風を当てても柔らかくなります。

- 7** 素早くホースにストレーナを挿込み、ホースバンドを締付けます。



⚠ 注意

ストレーナは必ず装着してください。装着しないで使用すると土砂やゴミその他の異物などを吸い込み、本機が破損する恐れがあります。

運転の準備

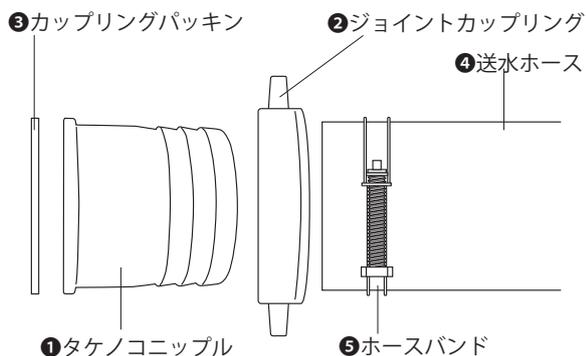
送水ホースの取付け

送水ホース（排水用）をご用意ください。

ホースをホームセンター等でご購入の際は、部品の「タケノコニップル」を持参し、サイズを確認することをおすすめします。

■適応ホース

モデル名	呼径 (Φ)	内径 (Φ)	最大長さ
HG-DP50	50mm	52 ± 2.0mm	32m
HG-DP80	75mm	77 ± 2.0mm	28m

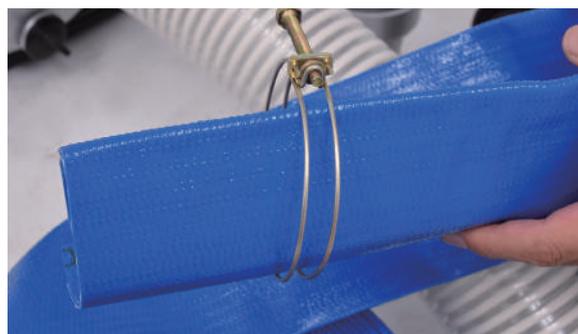


- ① タケノコニップルに② ジョイントカップリングを通す
- ③ カップリングパッキンをはめる
- ④ 送水ホースに⑤ ホースバンドを通す
- ① タケノコニップルに④ 送水ホースを挿込む

- 1** ジョイントカップリングにタケノコニップルを通し、カップリングパッキンをはめます。



- 2** 送水ホースにホースバンドを通します。



- 3** タケノコニップルにホースを奥までしっかり挿込み、ホースバンドを 10mm のスパナまたはマイナスのドライバーで締付けます。

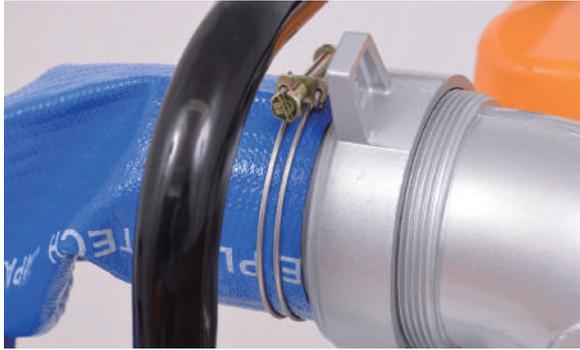


- 4** 本体送水口にジョイントカップリングを時計回りに回しねじ込みます。

※送水ホースが付いていてジョイントカップリングが回しにくい場合は、先にジョイントカップリングを送水口に取付けた後に送水ホースを取付けることも可能です。



運転の準備



3 呼び水をポンプの送水口下面まで注入します。

注意

呼び水が不足すると、自吸性能が低下します。

呼び水を入れる

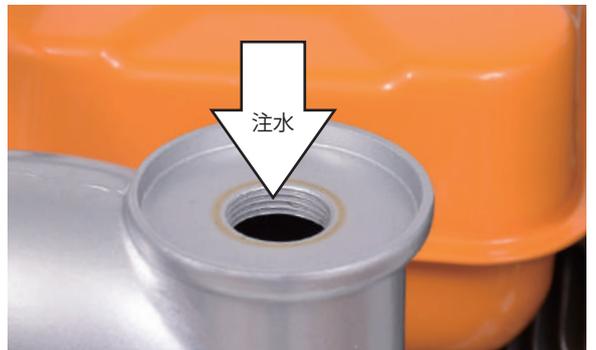
運転前に必ずポンプ上部の呼び水注入口から水を注入します。

注意

呼び水を入れずに運転されるとシール部分が焼損し、ポンプ故障の原因となります。万が一呼び水を入れずに運転をした場合は、すぐエンジンを停止し、ポンプ部の温度が下がってから注水してください。

1 水平で安定した地面に本機を設置します。

2 ガン先端のジョイント部リングを指で下げます。



運転前の点検

警告



禁止

- ・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- ・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- ・運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。



指示

- ・燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行ってください。
- ・燃料をこぼさないように注意してください。所定のレベルを超えて補給しないでください。
- ・燃料がこぼれた場合は、直ちに拭取ってください。
- ・燃料は、無鉛レギュラーガソリンを使用してください。

注意



指示

- ・燃料給油キャップは確実に閉めてください。
- ・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。
- ・給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。

エンジンオイルの給油

工場出荷時、エンジンオイルは入っていません。

下記要領で給油してください。

必ず給油してください。また、工場で試運転をしているため、若干オイルが内部に残っている場合がありますので、給油の際は、こまめにオイルゲージで確認しながら給油してください。

1 エンジンオイルを準備します。

推奨オイル	4 ストロークガソリンエンジン専用 100%化学合成油 SAE10W-30 ・寒冷地は SAE5W-30
オイル容量	0.6L

注意

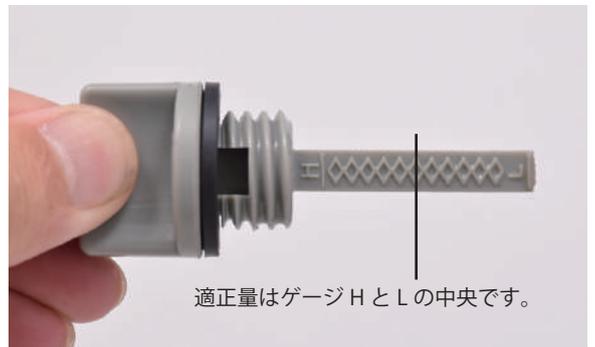
- ・エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジン不調になる恐れがあります。
- ・こぼれたオイルは必ず拭き取ってください。

2 本体を水平な場所に移動させ、オイル給油キャップを取外し、オイルゲージを布などで拭取ります。



3 オイル給油キャップを取付け一旦締付け、再度外します。

4 オイルが、オイルゲージのオイル量範囲(中央)まであるか点検します。



5 オイル量が少ない時は、新しいオイルを補給します。

6 給油が終わったらオイル給油キャップをカチッと音がするまでしっかり締めます。

運転前の点検

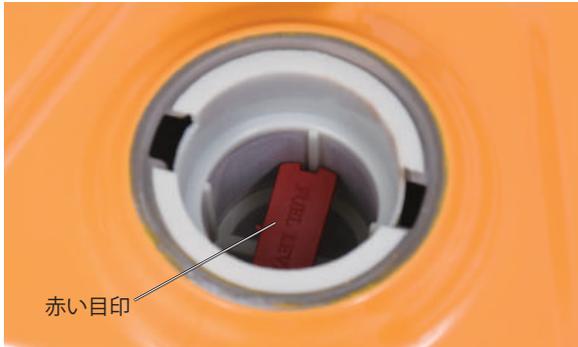
燃料の給油

工場出荷時、燃料は入っていません。
下記要領で給油してください。

- 1 燃料を準備します。

使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
タンク容量	3.6L

- 2 燃料タンクキャップを開け、液面を見ながら少しずつこぼさないように給油します。
上限(赤い目印)を超えないように給油します。
※上部ギリギリまで給油しないでください。



- 3 給油が終わったら燃料タンクキャップをしっかりと閉めます。

エアクリーナーの点検

エアフィルタの汚れを点検し、汚れがあるときは清掃を行ってください。

- 1 エアクリーナーカバーの蝶ナットを取外し、カバーを取外します。



- 2 汚れを確認します。



- 3 汚れがある場合はエアフィルタを取外し、汚れをエアブロー等で吹き飛ばします。汚れがひどい場合は、エアフィルタの交換が必要になります。



運転操作の仕方

警告



禁止

- 燃料の臭いがある場合、運転しないでください。爆発の危険があります。
- エンジンの排気ガスには人体に有毒な成分が含まれています。特に一酸化炭素は無色無臭で非常に強い毒性があり、吸入すると死亡の恐れがあります。
- 燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- 運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。
- 換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。
- 周囲の動植物等にも排気ガスが当たらないように注意をしてください。



指示

- エンジン始動後、異常を感じたり、予測される場合はすぐにエンジンを停止してください。
- 本機から離れるときは必ずエンジンを停止してください。
- 少しの移動でもエンジンを停止してください。

注意

エンジンを始動するときは、周囲に人や動物がいないことを確認してください。

エンジンのかけ方

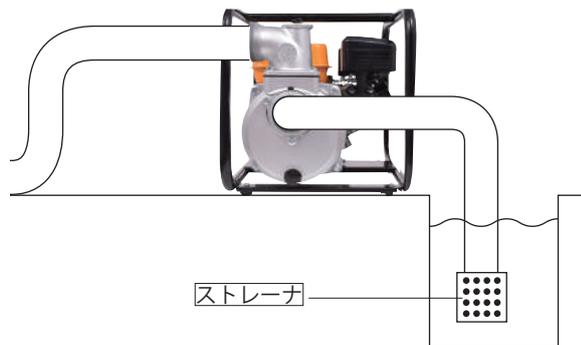
工場出荷時、エンジンオイルは入っていません。
下記要領で給油してください。

- 1 エンジンをかける前に、必ず呼び水を規定量注入してください。(P.13 参照)

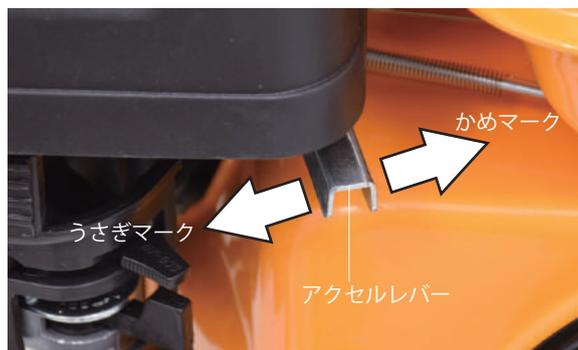
注意

呼び水を入れずに運転されるとシール部分が焼損し、ポンプ故障の原因となります。万が一呼び水を入れずに運転をした場合は、すぐエンジンを停止し、ポンプ部の温度が下がってから注水してください。

- 2 ストレーナを水に沈めます。



- 3 アクセルレバーを、高速(うさぎマーク側)と低速(かめマーク側)の中間にします。



- 4 エンジンが冷えているときは、チョークつまみを左いっぱい(閉)にします。燃料コックは右いっぱい(ON)にします。



運転操作の仕方

- 5** エンジンスイッチを「ON」にします。



- 6** リコイルスターターを重くなる所までゆっくり引き、そこからすばやく引っ張ります。エンジンがかかったらグリップをゆっくり戻します。

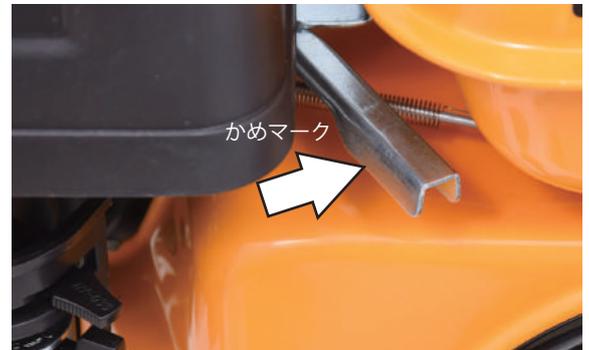


- 7** エンジンを始動後暖気運転を行い、運転状況を確認します。

- 8** チョークつまみを使用した場合は、チョークつまみを右(開)に戻します。



- 9** エンジンの回転数が安定し、アクセルレバーを低速(かめマーク側)から高速(うさぎマーク側)に操作し、滑らかに加速するようになれば暖機運転完了です。



👉 エンジンがかからないとき

まず、燃料が入っているかご確認ください。上記確認してもかからない場合は、点火プラグが燃料で濡れている可能性があります。下記をお試しください。

1. 点火プラグキャップを取外す
2. 点火プラグを取外す
3. リコイルスターターを数回引きシリンダ内を換気
4. 点火プラグを取付ける
5. 点火プラグキャップを取付ける
6. チョークつまみを右(開)にする
7. 燃料コックを「ON」にする
8. エンジンスイッチ「ON」にする
9. リコイルスターターを軽く引き、重く感じたところで一旦止め、ハンドルを一度戻してから、素早く引くとエンジンがかかります。

運転操作の仕方

エンジンの止め方

1 アクセルレバーを低速(かめマーク側)にします。

2 エンジンスイッチを「OFF」にします。

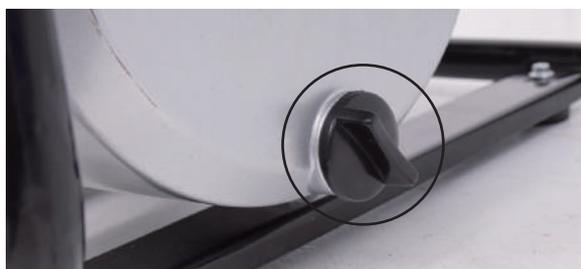


3 燃料コックを左いっぱい(OFF)にします。



👉 外気温が 0°C 以下の場合

水が凍結する気象条件で本機を使用した場合、ポンプケース内に残っている水が凍結し、部品を破損される恐れがあります。必ずドレンよりポンプ内の水を抜いてください。



使用方法

警告

- 吐出口、吸入口を塞がないでください。ポンプケース内が非常に高圧、高熱になる恐れがあります。
- 自吸する際は水以外は使用しないでください。自吸に時間がかかる場合、エンジンを5分以上切って、水を追加しポンプを冷却してください。
- ポンプが高圧、高温になっているときは、ドレンやホースをあげないでください。

注意

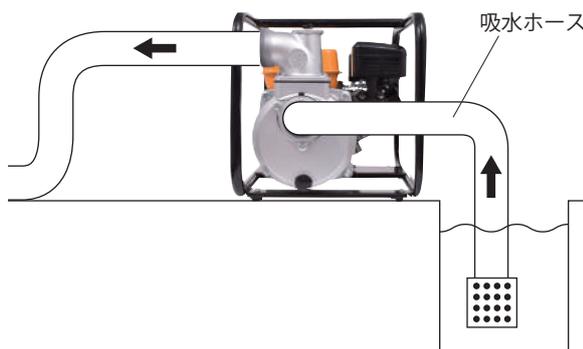
- 呼び水を入れずに運転されるとシール部分が焼損し、ポンプ故障の原因となります。
- 万が一呼び水を入れずに運転をした場合は、すぐエンジンを停止し、ポンプ部の温度が下がってから注水してください。

ポンプの使い方

- 1 ポンプケース内に呼び水が規定量入っていることを確認します。



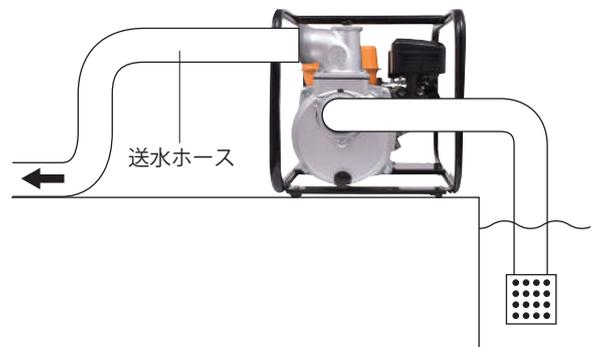
- 2 吸水ホース(サククションホース)先端のストレーナが水中にあることを確認します。



注意

水底が泥・砂状の場合、ポンプに吸入しないよう、ストレーナを水底より浮かせてください。

- 3 送水ホース先端の排水先に、障害物がないかを確認します。



- 4 エンジンを始動します。(始動方法は P.16 参照)

注意

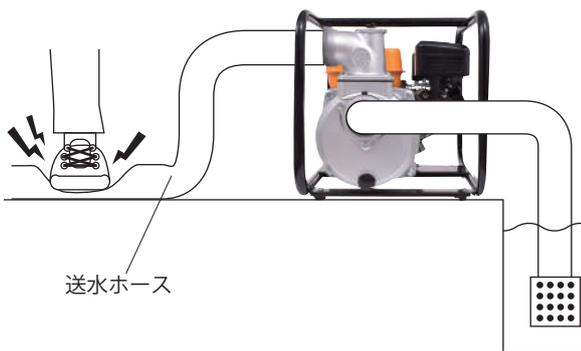
- 始動直後は、エンジン各部に十分にエンジンオイルが行き渡っていませんので、急激に回転を上げないでください。
- 不必要な高回転は、エンジンポンプの寿命を短くし、故障の原因となります。

使用方法

☝ ウォーターハンマー現象にご注意ください。

ポンプ運転中に送水ホースを踏んだり、物を乗せたり、送水側のバルブを急激に締め切ったりすると、瞬間的に大きな圧力がポンプケース内にかかります。

これはウォーターハンマー現象と呼ばれ、ポンプ破損の原因となりますのでご注意ください。



☝ 外気温が0℃以下の場合

水が凍結する気象条件で本機を使用した場合、ポンプケース内に残っている水が凍結し、部品を破損される恐れがあります。必ずドレンよりポンプ内の水を抜いてください。

- 3 ストレーナにゴミが付着している場合は、取除きます。

⚠ 注意

燃料は劣化しますので、使用後は必ず燃料を使い切り、長期間タンクに燃料が残らないようにしてください。燃料が残っていると、次回使用時に正常にエンジンが始動しない場合があります。

作業を終了するには

- 1 P.18 の要領でエンジンを停止します。

⚠ 注意

エンジン停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので高温部に触れないでください。

- 2 運転後は必ずポンプケース下部のドレンプラグを外し吸入口または送水口からきれいな水で汚れを洗い流します。



点検・整備の仕方

警告

- 点検整備をするときは、必ずエンジンを停止してから行ってください。
- 作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめてください。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願い致します。
- 点検整備後は、すべての部品を確実に取付けたことを確認してください。

注意

- 作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行ってください。
- メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管ください。

対象部品	点検項目	運転前の点検	初回の1ヵ月後または 20時間運転後	3ヵ月毎または 50時間運転毎	6ヵ月毎または 100時間運転毎	1年毎または 300時間運転毎	掲載ページ
燃料	ガソリン量、漏れ	●					P.15
エンジンオイル	オイル量	●					P.14
	交換		●	●			P.22
エアクリナー	清掃			●			P.23
	交換					●	P.23
点火プラグ	清掃				●		P.23
	交換					●	P.23

警告

- 緩めたボルトは、必ずしっかり締めてください。ガソリンが漏れると引火の危険があります。
- こぼれたガソリンは布などで、直ちに拭取ってください。

燃料の抜き方

- 1 廃油受けを準備します。
- 2 燃料タンクキャップを取外し、タンク内の燃料を手動のポンプ等で抜きます。
- 3 燃料コックを右 (ON) にします。



- 4 ○部分の斜めについているボルトを緩めて、ガソリンを容器に受けます。キャブレターの燃料を抜くことができます。



- 5 燃料を抜き終わったら、緩めたボルトは、必ずしっかり締めてください。

点検・整備の仕方

エンジンオイルの給油・点検

【エンジンオイルの交換】

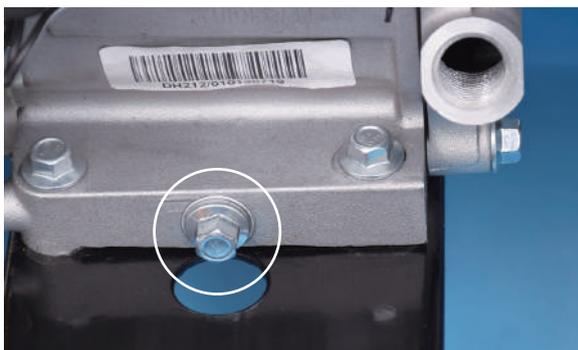
エンジンオイルは、初回 20 時間、以降 50 時間毎に行ってください。

■エンジンオイル交換の手順

- 1 廃油受けを準備します。
- 2 本機を水平な場所で水平な状態にし、本体の下に廃油受けを置きます。
- 3 オイル給油キャップを取外します。



- 4 ドレンボルトを 10mm のレンチで緩めると、底に空いた排出口からオイルが廃油受けに流れ出します。

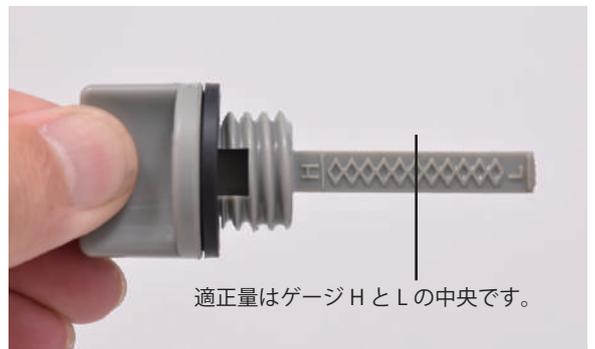
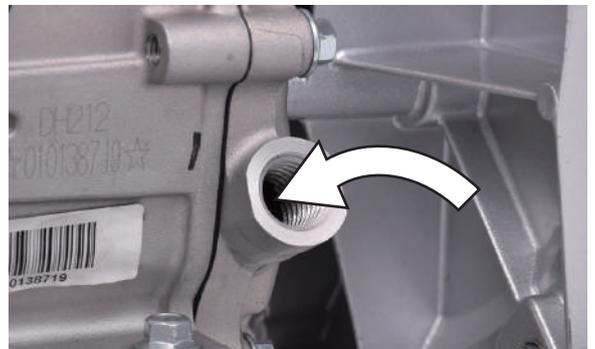


🔧 オイルチェンジャーで抜く

市販のオイルチェンジャーでオイル給油口から抜くことも出来ますが、若干オイルは残ります。完全に抜く場合は、ドレンボルトより抜いてください。（使用方法はオイルチェンジャーの取扱説明書をご覧ください。）



- 5 排出が終わりましたら、ドレンボルトを確実に締めます。
- 6 新しいオイルをこぼさないように給油します。



適正量はゲージHとLの中央です。

推奨オイル	4 ストロークガソリンエンジン専用 100%化学合成油 SAE10W-30 ・寒冷地は SAE5W-30
オイル容量	0.6L

- 7 オイル給油キャップをしっかり閉めます。

点検・整備の仕方

⚠️ 注意

- ・エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジン不調になる恐れがあります。
- ・こぼれたオイルは必ず拭き取ってください。

点火プラグの点検・整備

点火プラグを取外し、電極の点検・清掃を行います。
※エンジンが冷えている状態で行ってください。

交換時期	1年毎または 300 時間運転毎
適応点火プラグ	BP7ES (NGK)

■使用工具：プラグレンチ（付属）、ワイヤブラシ
点火プラグの電極を点検し、汚れている場合は、ワイヤブラシで清掃してください。

1 点火プラグキャップを引き抜きます。



2 点火プラグをプラグレンチで取外します。（反時計回り）



3 点火プラグをワイヤブラシで清掃します。



4 プラグキャップにプラグを確実にはめ、プラグ先端を金属部に当てながらリコイルスターターを引きます。この時プラグ先端から火花が出れば、正常です。

※手袋着用で行ってください。

5 取外しと逆の手順で取付けます。

※点火プラグは、点火プラグキャップにしっかりとめてください。はめ込みがあまいと点火しません。

エアクリーナーの点検

エアフィルタの汚れを点検し、汚れがひどい時は清掃を行ってください。（P.15 参照）

点検・整備の仕方

ポンプケース内の点検・整備・清掃

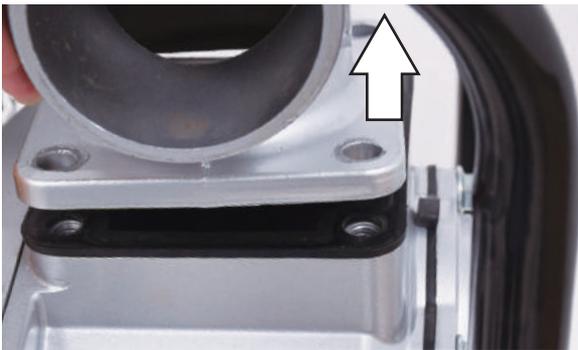
使用後は、ポンプケース内の点検、整備、清掃を行うことで本機を長期に渡ってご使用いただけます。

■送水口の取外し

1 4カ所のボルトを13mmのスパナで取外します。



2 送水口を持ち上げ取外します。



3 パッキンにゴミなどの付着がある場合は取除き、亀裂などがある場合は、パッキンを交換します。

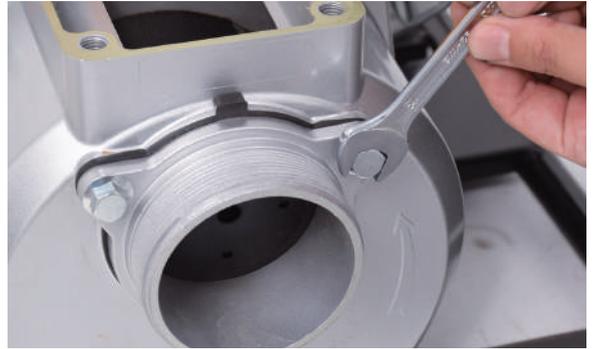


4 取付けは逆の手順で行います。

ボルトの締付けは市販のトルクレンチを使用してください。締付けが強すぎるとパッキンが潰れ、漏れの原因になります。
(締め付けトルクは 13-15N.m)

■吸入口の取外し

1 3カ所のボルトを13mmのスパナで取外します。



2 吸入口を取外します。



3 吸入口バルブにゴミなどの付着がある場合は取除き、亀裂などがある場合は、吸入口バルブを交換します。



点検・整備の仕方

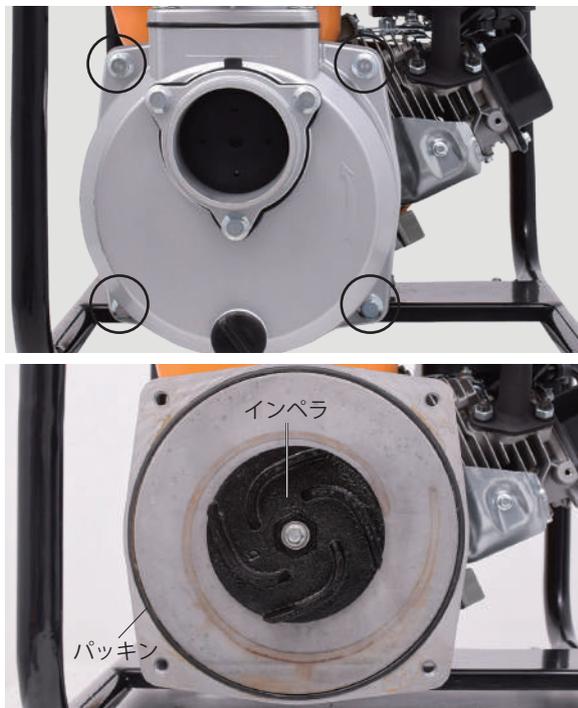
- 4** 取付けは逆の手順で行いますが、吸水口には上下があります。



- 5** ボルトの締付けは市販のトルクレンチを使用してください。締付けが強すぎるとパッキンが潰れ、漏れの原因になります。
(締め付けトルクは 13-15N.m)

■ポンプケースの取外し

- 1** 4カ所のボルトを 13mm のスパナで取外し、ポンプケースを取外します。



- 2** インペラに付着したゴミなどを取除きます。

- 3** パッキンにゴミなどの付着がある場合は取除き、亀裂などがある場合は、パッキンを交換します。

- 4** インペラカバーを取出し、ポンプカバーとインペラハウジングを清掃します。



- 5** 取付けは逆の手順で行います。
ボルトの締付けは市販のトルクレンチを使用してください。締付けが強すぎるとパッキンが潰れ、漏れの原因になります。
(締め付けトルクは 13-15N.m)

長期間使用しないとき

本機を長期に渡り使用しないときは、次のお手入れを行ってください。

- 1** 保管するときは、平坦で堅い地面に水平に置てください。
- 2** 燃料タンク、キャブレターの燃料を抜きます。(P.21 参照)
- 3** エンジンスイッチを「OFF」にしてください。
- 4** 点火プラグキャップを外します。
- 5** チョークつまみを右「開」にします。
- 6** ポンプケース下部のドレンノブを外し、吸入口または送水口からきれいな水で汚れを洗い流します。内部清掃後は完全に排水し、ドレンノブを取付けます。
- 7** 各部ボルトの破損、腐食、緩みの点検をします。
- 8** 湿気やホコリが少なく、子供の手が届かない場所に保管してください。

運搬について

- 1** 燃料タンクのガソリンを、全て抜きます。振動や衝撃で、燃料がこぼれる恐れがあります。
- 2** エンジンスイッチを「OFF」にします。
- 3** ロープなどで、本体をしっかり固定します。

注意

車内に積載したまま、直射日光のあたる場所に、長時間放置しないでください。気化したガソリンが、引火し爆発する恐れがあります。

困ったときの対処法

●エンジンがかからない

症状	原因	対処
点火プラグに火花が出ていない ※火花の確認方法は、P.28 参照	始動スイッチボタンの不良	交換
	点火プラグ不良	交換 (P.23 参照)
	点火プラグ・キャップ接続不良	確実に接続
	イグニッションコイルの不良	交換
	エンジンオイルが少ない、入っていない	確認 (P.14 参照)
キャブレターに燃料が来ていない	燃料が入っていない	燃料を入れる (P.15 参照)
	燃料ホースの詰まり、漏れ	ホース清掃、交換
	燃料タンク錆びまたは、異物混入による詰まり	交換、フィルタ清掃
キャブレターに燃料は来ているが、エンジン内に燃料が来ていない	キャブレターの詰まり (ニードル・バルブ固着)	キャブレター分解掃除
エンジンがかからない	オイルの入れすぎ	オイル交換 (P.22 参照)
	エンジンオイルが少ない	オイルを補充 (P.33 参照)
	エンジンオイルにガソリンが混ざっている	清掃または交換 (P.22 参照)
	エアフィルタの汚れ	清掃または交換 (P.15 参照)

●エンジンはかかるが、すぐ停止したり、停止しそうになる

症状	原因	対処
エンジンはかかるが止まる、止まりそうになる	エアフィルタの汚れ	清掃または交換 (P.15 参照)
	キャブレター詰まり (ニードル・バルブ固着)	キャブレター分解掃除
白煙が出る	オイルの入れすぎ	オイルを抜く (P.22 参照)

●マフラーから白い煙が出る

症状	原因	対処
	指定以外のエンジンオイルを使用	オイル交換 (P.22 参照)
	本機を転倒させたことによるオイル上がり	メーカー、購入店に問い合わせ

症状	原因	対処
水を吸い上げない	パッキンの破損等またはホースの破損、接続不良により吸水側で空気を吸い込んでいる	吸水口のパッキン、ホースの確認
	呼び水不足	指定量まで水を入れる (P.13 参照)
	ドレンノブの緩み	締め付ける
	吸入ホースがサクシオンホースではない	サクシオンホースにする
	エンジンの回転不良	メーカー、購入店に問い合わせ
水量が少ない	パッキンの破損等またはホースの破損、接続不良により吸水側、送水側で空気を吸い込んでいる	吸水口のパッキン、ホースの確認
	吸入揚程が高い	低くする (P.8 の表参照)
	インペラに異物が詰まっている、絡まっている	分解清掃 (P.24 参照)
	インペラの摩耗	交換 (P.24 参照)

困ったときの対処法（点火プラグの点検）

点火プラグの点検 ※機種により、プラグの位置、プラグキャップやリコイルの形状等異なります。ご了承ください。

①プラグキャップを外し、付属のプラグレンチでプラグを取外し、先端を確認します。



付属のプラグレンチで反時計回りで取外します。振動等で緩まないよう少し固めに締め付けています。

先端が濡れている

先端は濡れていない

②燃料で濡れているため布等でよく拭きます。



③リコイルスターターロープを引いて（15～20回）、プラグ穴から燃料が出てこないか確認し、出てきたらよく拭き取ります。

②外したプラグをキャップに取付けます。



③スイッチをONにします。

④プラグ先端をエンジン金属部に当てながら、リコイルスターターを引きます。



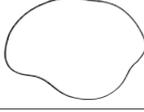
火花が出る

火花が出ない

プラグに異常はありません。プラグ先端の濡れは燃料の行き過ぎで起こります。再度エンジンをかけ、確認ください。それでもかからない場合は、他の原因が考えられます。

エンジンオイル不足かプラグの不良か他の原因が考えられます。購入先にお問い合わせください。

消耗品・部品・オプション品一覧

商品名	商品コード		
吸入口バルブ	HG-DP50 用	7221n	
	HG-DP80 用	7314n	
送水口パッキン	HG-DP50 用	7213n	
	HG-DP80 用	7305n	
ポンプケースパッキン	HG-DP50 用	7212n	
	HG-DP80 用	7302n	
インペラハウジングパッキン	HG-DP50 用	7215n	
	HG-DP80 用	7304n	
吸入口	HG-DP50 用	7228n	
	HG-DP80 用	7315n	
ジョイントカップリング	HG-DP50 用	7229n	
	HG-DP80 用	7311n	
タケノコニップル	HG-DP50 用	7208n	
	HG-DP80 用	7310n	
カップリングパッキン	HG-DP50 用	7222n	
	HG-DP80 用	7309n	
ホースバンド	HG-DP50 用	7223n	
	HG-DP80 用	7312n	
ストレーナ	HG-DP50 用	7225n	
	HG-DP80 用	7317n	
ゴム脚		531121n	
ポンププラグ		7220n	
ポンププラグパッキン		7219n	

消耗品・部品・オプション品一覧

商品名	商品コード	
エアクリーナーアッセンブリ	242936n	
エアフィルタエレメント	242936-3n	
燃料タンクアッセンブリ	243130-273-p75-76n	
燃料タンクキャップ	243604n	
燃料タンクストレーナ	817030n	
ON/OFF スイッチ	245217-053n	
リコイルスターターアッセンブリ	244740-273an	
イグニッションコイル	97514n	
キャブレター	242815n	

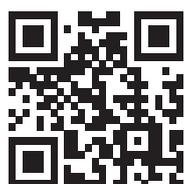
使用することで消耗する部品または劣化する部品は全て保証適用外となります。

ゴムを使用する部品、皮を使用する部品、樹脂を使用する部品、スポンジ類、紙類、パッキン類、ギア・ベアリング等の干渉する部品、ボルト、ナット、ヒューズ、モーターブラシ、チェーン、バルブ内部の部品、バネ、潤滑油、燃料、作動油、刃または先端部品、クラッチ、シャープピン等の緩衝部品、ワイヤ、バッテリー、点火プラグ等

★上記消耗品・部品をご注文の場合は、下記各サイトよりご注文ください。



本店サイト
<https://www.haigeshop.net/>



楽天サイト
<https://www.rakuten.co.jp/haige/>



ヤフーサイト
<https://store.shopping.yahoo.co.jp/haige/>

※電話や FAX でのご注文は、誤発注・誤発送を回避するため、受付けておりません。
 ご迷惑・ご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

本規約は、ハイガー(以下「弊社」とする)を経由して販売させていただいた該当商品に関して保証する内容を明記したものです。弊社商品には商品保証書等は同梱しておりません。お客様の購入履歴や保証情報は弊社にて管理・保管しておりますのでご安心ください。返送いただく場合商品を再梱包していただく必要がございますので、梱包材はお捨てにならないようお願いいたします。

1. 保証の期間

商品発送日(ご来店引取の場合ご来店日)から1年間といたします。業務用・営業用として使用される場合、保証期間は6ヵ月といたします。保証期間を超過しているものについては、保証の対象外となり有償対応となります。商品発送日より7日以内の初期不良にあたる場合、送料・手数料弊社負担にて対応いたします。

2. 保証の適用

- ・お買い上げいただいた弊社商品を構成する各部品に、材料または製造上の不具合が発生した場合、本規約に従い無料で修理いたします。(以下、この無料修理を「保証修理」とする)往復送料や出張修理を行った場合の出張料は、お客様のご負担となります。
- ・保証修理は、部品の交換あるいは補修により行います。保証修理で取り外した部品は弊社の所有となります。
- ・本規約は、第一購入者のみに有効であり、譲渡することはできません。ご購入された年月日、販売店、商品、製造番号の特定ができない場合、保証が受けられない可能性があります。
- ・本規約の対象となる商品とは、日本国内で使用し故障した商品とします。日本国外に持ち出した時点で保証は無効となります。

3. 保証適用外の事項

- (1) 純正部品あるいは弊社が使用を認めている部品・油脂類以外の使用により生じた不具合
- (2) 保守整備の不備、保管上の不備により生じた不具合
- (3) 一般と異なる使用場所や使用方法、また酷使により生じた不具合
- (4) 取扱説明書と異なる使用方法により生じた不具合
- (5) 示された出力や時間の限度を超える使用により生じた不具合
- (6) 弊社が認めていない改造をされたもの
- (7) 地震、台風、水害等の天災により生じたもの
- (8) 注意を怠った結果に起きたもの
- (9) 薬品、雨、雹、氷、石、塩分等による外から受ける要因によるもの
- (10) 使用で生じる消耗や時間の経過で変化する現象(退色、塗装割れ、傷、腐食、錆、樹脂部品の破損や劣化等)
- (11) 機能上影響のない感覚的な現象(音、振動、オイルのにじみ等)
- (12) 弊社または弊社が認めているサービス店以外にて修理をされた商品
- (13) 使用することで消耗する部品または劣化する部品(ゴムを使用する部品、皮を使用する部品、樹脂を使用する部品、スポンジ類、紙類、パッキン類、ギヤ・ベアリング等の干渉する部品、ボルト、ナット、ヒューズ、モーターブラシ、チェーン、バルブ内部の部品、バネ、潤滑油、燃料、作動油、刃または先端部品、クラッチ、シャーペン等の緩衝部品、ワイヤ、バッテリー、点火プラグ等)
- (14) 保証修理以外の、調整・清掃・点検・消耗部品交換作業等
- (15) 商品を使用できなかったことによる損失の補填(休業補償、商業損失の補償、盗難、紛失等)

4. 別扱いの保証

部品メーカーが個別に保証している部品については部品メーカーの保証が適用されます。

5. 保証修理の受け方

まずはお問い合わせフォームにて弊社へご連絡ください。
またはお近くの修理協力店へご連絡をしてください。
症状・使用状況を伺いし、お手続方法をご案内させていただきます。

6. 注意事項

- ・動作点検を行ってから出荷しておりますので、燃料やオイル、水分が残っていたり、多少の傷や汚れ等が付いている場合があります。
- ・部品の在庫がない場合、お取り寄せにお時間をいただくことがあります。
- ・仕様変更などにより同時交換部品が発生する可能性があります。
- ・仕様変更などによりアッセンブリーでの供給しかできない場合があります。
- ・生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。
- ・無在庫転売者(送り先が毎回違う購入者)の場合、転売者より購入した商品の場合、保証は無効となります。また発覚次第転売者への措置を取らせていただきます。

- アフターサービスについて■
1. 販売機種が対象となります。※弊社で商品をお買い上げの方に限らせていただいております。
 2. 生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。
 3. 保証期間(1年間)を過ぎたものは、保証期間内におけるご使用回数に関係なく、すべて有償となります。
 4. 修理の際の往復の送料はすべてお客様ご負担となります。
 5. 修理協力店へご依頼の際は、直接修理協力店に修理代をお支払いください。

お客様ご相談窓口

故障部品をお客様で交換される場合

まず、ご購入された店舗にご連絡をしてください。
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。
その際に生じる往復の送料は全てお客様のご負担となります。

お客様

①故障の状況をメールでご連絡ください。また、故障箇所の写真等を、メールに添付してください。

④送料お客様ご負担で、代替部品を発送致します。

ハイガーまたは販売・修理店

②受付
③故障内容の確認

故障部品をメーカーで修理する場合

弊社にご連絡をしてください。
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。
その際に生じる往復の送料、また修理工賃は全てお客様のご負担となります。

お客様

①故障の状況をメールまたはお電話でご連絡ください。また、故障箇所の写真等を、メールに添付してください。

②送料お客様ご負担で故障装置を発送してください。

ハイガー

③受付
④故障内容の確認
⑥お見積り了承
⑦故障装置の修理

⑤お見積り提示。

⑧送料お客様ご負担で、故障装置を発送いたします。

故障部品を販売・修理店で修理する場合

まず、ご購入された販売・修理店にご連絡をしてください。
保証期間内は消耗品を除き、壊れた部品は弊社で保証致します。
その際に生じる往復の送料、また修理工賃は全てお客様のご負担となります。
遠方の場合の出張修理や引取り修理は、別途料金が発生致します。

お客様

①故障の状況をメールでご連絡ください。その際、持ち込み修理^{*1}か、引取り修理^{*2}か、出張修理^{*3}かを相談させていただきます。

⑤持ち込み修理の場合、修理完了後ご来店ください。引取り修理の場合は、修理完了後お届け致します。
※ご希望に応じて相談させていただきます。

販売・修理店

②受付 ③故障内容の確認 ④故障装置の修理
^{*1}お客様ご自身が販売・修理店に製品を持ち込むことをいいます。
^{*2}販売・修理店がお客様のご自宅まで製品を引き取りに行くことをいいます。
^{*3}販売・修理店がお客様のご自宅まで行き、その場で修理を行うことをいいます。

修理、部品に関するご相談

修理依頼される時は、下記を事項ご連絡ください。

- | | | |
|--------|------------|-------|
| ①ご注文番号 | ④故障の状況 | ⑦ご住所 |
| ②商品名 | ⑤購入サイト、年月日 | ⑧電話番号 |
| ③商品の型番 | ⑥お名前 | |

修理、使い方などのご連絡窓口

お手数ですが、今一度本取扱説明書を熟読し、弊社のサイトや動画等を見ていただき、問題が解決しない場合は、下記までお問い合わせください。

●お問い合わせ先：下記カスタマー・サポート・センター

販売・修理店

販売・修理店は随時増えています。販売・修理店により修理対応機械が異なりますので、最新情報は下記サイトをご覧ください。

本店サイト ▶ <https://www.haigeshop.net/html/page3.html>

楽天サイト ▶ <https://www.rakuten.ne.jp/gold/haige/support/repair/shop/>

ヤフーサイト ▶ <https://shopping.geocities.jp/haige/after.html>

※ハイガーは、顧客満足度100%を目指し、日々製品(部品やカラーも含め)の改良を行っています。

そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。

また、取扱説明書は、製品製造時の最新版を同梱していますが、内容は随時改訂していますので、最新版は以下のサイトよりご確認ください。

「製品のお困り事」は、カスタマー・サポート・センターへ。

「製品が利用できない」、「故障かな?」、「修理をしたい」、「パーツを購入したい」など、下記カスタマー・サポート・センターへ、お問い合わせください。

HAIGE

〒370-0603
群馬県邑楽郡邑楽町中野5298-1

ハイガーオフィシャル 検索

<https://haige.jp/>



年中無休受付

※年末年始等除く



カスタマー・サポート・センターお問い合わせ窓口

<https://haige.jp/c/>

